

- 1 国民と自衛隊とのかけ橋として相互理解を深化
- 2 我が国の平和と安全に寄与
  - ・防衛意識の普及高揚
  - ・国の防衛及び防災施策、慰霊顕彰事業
  - ・地域社会の健全な発展に貢献
- 3 自衛隊退職者等の福祉を増進

# 公益社団法人 隊友会 横須賀支部だより

## 巻頭言

支部長 濱田 暢喜



会員各位並びに読者の皆さんこんにちは。

「支部だより」もこの度70号という節目の発行をめでたく迎えることとなりました。皆様には引き続き拝読賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、この記念すべき号の巻頭言に悩んでいたところ、書店で前防衛大 学校長国分良成氏の防大に関する著書を見て、学校長退職直後の同氏を題材にした新聞記事に大変感銘したことを思い出しました。ご記憶の方も多いことと承知の上で今回は当概記事をそのまま掲載したいと存じます。

それは、昨年6月28日付の朝日新聞のコラム「取材考記」(小村田 義之氏 記)で、タイトルは「退任の学校長 学生に「生まれ変わったら入りたい」防大の厳しさ・絆と向き合いメール」です。(以下、記事)

インタビュを終え、心に残るひと言がある。慶応大学の中国研究者を

経て、防衛大学校(神奈川県横須賀市) 学校長をこの春に退いた国分良成(ルビこくぶんりょうせい)さん(67)の、こんな言葉だ。

「生まれ変わったら、次は防衛大学校に入りたい。合格すれば、ですが」

冗談なのか、本気なのか。でもどこか真剣な思いがあるように思えた。

実は3月の卒業式で、式辞を締めくくったのが、この言葉だった。9年の長きにわたって校長を務めた人物が、

最後にこんなことを言うものだから、制服姿の学生たちは思わず噴き出しそうになったらしい。

この式辞を読み返してみると、在任中に起きた学生のいじめ事案に触れ

「ずいぶん悩んだことも多々ありました」と打ち明けている。さらに、事故や病気で命を落とした学生や留

学生、卒業生の名前をあげながら、こんなことを口にしていた。

「私は心の中にひとつのコンプレックスがあったことを白状します。それは防大卒業生でもなく、日本で最も厳

しい学生生活を経験したこともない私が、防大教育の何たるかを語り続けたことです」「ようやくそのコンプレ

ックスから解放されることになり、正直少しほっとしています」と。

民間人なればこそ、の率直な述懐なのだろう。そこには、あくまで現場

の感覚にこだわろうとする研究者としての姿勢も垣間見える。

国分さんは、同世代の友人に会う

とこう尋ねるそうだ。「生まれ変わったら同じ会社に入りたくないか」。たいていは軽く否定されたり、お茶を濁されたり。ところが防大卒の自衛隊幹部は、ほとんどがもう一度、防大から自衛隊に入ると即答するという。

命令と服従、規律が支配する自衛隊は、やはり一般社会とは異質な部分がある。そこに生まれる独特の絆があるのかもしれない。だとしても、一人ひとりに目を向ければ、迷いや悩みを抱えた等身大の人間がいる。

そんな世界に飛び込んで、学生たちと真つすぐに向き合おうとしたのだろう。その言葉は、一人の人間としての共感であり、巣立つていく卒業生への最大限のエールだったに違いない。(記事以上)

支部が参加する懇親会などにおいても、「防大を世界一の士官学校にする」と明言する良成節を覚えておられる方も多いでしょう。同氏の誰にも臆しない愛情いっばいの発言には聞いているほうが面映く思うほどでしたが、おかげで国分氏の言葉の「防衛大学校」を「自衛隊」に変えて、「生まれ変わったら、次も自衛隊に入り」と愛情表現することこそが市民と自衛隊の架け橋をモットーにする隊友会会員の究極の役目だと気づかされました。ただ、すでに職業としての自衛隊を知る我々OBが発言するには、すこし勇気がいることかもしれません。国分氏ほどストレートではなくても、そこは小出しの語りで敷衍してもらえれば幸いです。

街にいい風 あなたにいい風

# SHONAN

街にいい風 湘南しんきん 湘南しんきん 検索

住宅リフォーム工事なら小工事でもお気軽に

## (株)オノシマホーム

### TEL046-833-2968

横須賀市森崎1-2-21 エザース北久里浜3階  
大工、外壁塗装、水廻り、内装、屋根、外構 他  
久里浜通信学校総務部・教導隊OB  
鹿児島生、愛知出身、陸上自衛隊生徒23期卒

おかえりなさい！

### 遠航部隊、無事の帰国



小野田防衛政務官の訓示を受ける  
遠洋練習航海部隊員

8月22日(月)10時30分から11時の間、横須賀の逸見岸壁において遠洋練習航海部隊の帰国行事が、横須賀地方総監乾海将の執行で挙行された。

行事には就任直後の小野田防衛大臣政務官、酒井海僚長及び所在の各級指揮官、来賓として国会議員、横須賀市長等さらに隊員家族約400名が出迎え、無事の帰国を祝った。

令和4年度遠洋練習航海部隊は4月24日(日)に横須賀を出港、121日間にわたり実習幹部に対する各種の訓練や訪問国との友好親善、親善訓練などを重ね、小牟田司令官、小野かしま艦長、萬年しまかせ艦長以下実習幹部約160名(うち女性約20名)を含む計約530名は、全員帰国した。

当日は、時折ミスト状の驟雨が降り注ぐほかは行事に申し分のない天気で、政務官、海上幕僚長及び上地横須賀市長それぞれが、無事の帰国をねぎらうと

もに今後の活躍に期待する旨の訓示、祝辞を述べた。

一段とたくましくなつて帰国した実習幹部は、その後要員区分に分かれそれぞれの訓練に参加、特に艦艇要員は9月5日から10月12日の間、近海練習航海を実施した。

### 三年ぶり、夏季防衛講座開催される



講演中の河野克俊氏

今回の夏季防衛講座は「日本の安全保障と課題」と題し、前統合幕僚長の河野克俊氏による講演だった。同氏はマスコミにも度々登場し、現役時代の貴重な経験に基づく論評には徹底したリアリズムを感じさせるが、これは講演でも同様だった。

特に、深く関わった安倍首相の印象として硫黄島視察において英霊の遺骨がいまだ眠る滑走路に膝まづかれたことや、ロシアによるウクライナ侵攻に対する見方、米中関係の悪化と中距離ミサイルの保有について、さらに2017年トランプ大統領時代の米国による北朝鮮に対する圧力が強まる中、米国で開催のシンポジウムに

## 防衛省団体扱自動車保険・防衛省団体扱火災保険

- 1 ○Bの皆さま向けのサービスをご用意しています。見守りサービス、防災アラートサービス、電車を運行不能にさせた場合の損害賠償、家具移動、電球交換サービス
- 2 一般に比べ最大約19% (自動車保険)、約15% (火災保険) の割引です。
- 3 ○Bの皆さまにご加入いただけます。

## 弘済企業株式会社

その他、集団扱いがん保険も取り扱いしています。

詳しくは、右記の保険常駐員にご相談下さい。

海自横須賀：山田 046-822-3500(内線 2317) 海自船越：柴田 046-861-8281(内線 4863)  
 陸自武山：荒木 046-856-1291(内線 571) 陸自久里浜：丸山 046-841-3300(内線 328)

## 自衛隊員様限定特別ご宴会プラン

お料理&飲み放題 お一人様 **¥5,000** (税別)

各種ご宴会・退官パーティー等ご予約承り中!

# よこすか平安閣

〒238-0041 横須賀市本町1-4



**0120-23-1122**

参加した際米国の本気度を知って最も戦争の蓋然性を感じたこと、あるいは韓国艦艇による海自哨戒機へのレーダー照射や韓国観艦式時の自衛艦旗不掲揚申入れなどの問題に対しては、制服を身につけるものの矜持として断固たる対応を主張したことなど、いずれも貴重なエピソード、経験談や見解を紹介していただき、今後防衛問題を読み解く上で有意義な講話であった。

なお、これまで夏季防衛講座と賀詞交歓会の横須賀防衛団体2大行事については、主幹事団体を当支部と横須賀水交会が交互に実施してきたところ、今回以降当該団体及び横須賀防衛協会の申し合わせにより夏季防衛講座は横須賀水交会、賀詞交歓会は当支部が固定的に主幹事団体を担当することとなった。

令和四年度鎌倉市防災訓練実施



救助訓練中の第31普通科連隊隊員

8月23日(火)10時から12時の間、鎌倉市の山崎浄化センターにおいて当支部とも防災協定を締結している鎌倉市の防災訓練が行われ、支部長が参加した。救助訓練には横須賀武山に駐屯する第31普通科連隊が参加するとともに、自衛隊神奈川地方協力本部もブースにおいて防災関連グッズを展示、さらに軽装甲車両の展示もあつて多くの参加者が見学するなど自衛隊の存在感をアピールした。

当日は炎天下となつたがコロナ禍で3年ぶりの本訓練も順調に推移、2019年の台風被害で災害派遣を経験した鎌倉市とも引き続き緊密な関係の維持に努めていきたい。

会員投稿

浦賀道ぶらり散歩(連載四)

前号の「浦賀道ぶらり散歩」は、金沢六浦に立ちよつた季節は、「春を名残惜しむ景色となり、春の極まり夏の立つがゆへ也」と詠まれた立夏(二十四節気の一つ)のころだつた。金沢・六浦に別れを惜しむ、当時の風景(浮世絵・金沢八景・歌川広重)を思ひうかべ(内川)歩くことにした。

平潟湾からの五月の風が心地よい。左奥に瀬が崎、野島は、霞んだ平潟湾に浮かんでいるようだ。暫く歩くと、瀬が崎の村落を過ぎるころ、目の前に天神山系が東西に連なつていた。その山景は衣を変え、新緑が萌えている。

上りの浦賀道から、六浦(湊)を振り返ると、鎌倉末期に草庵から平潟湾 内川浦・金沢八景の一つを眺める兼好法師の姿が重ね合わさる。

「古さとの 浅茅の庭の露の上に 床は草葉も やどる月かな」という和歌を詠み遣した。

隠遁地の金沢の草庵で：「つれづれ(徒然)することもなくなるままに日暮らし硯に向かひて・・・「随筆、徒然草」を執筆されていたのだろう。

その「徒然草」第三十四段には、甲香はほら貝・(中略)・武蔵国金沢という浦に有りしを、所の物(者)は「へなだり」申し侍る(はべる)とぞ言えし・・・と兼好が金沢の見聞した話が残されている。

また、当時兼好は、草庵(上行寺の裏山)から山伝いに「金沢文庫」まで歩いて、日々、蔵書文庫に勤しみ勉強していたという。

県立金沢文庫では、収集した吉田兼好「徒然草」関係のコレクションなど展示もされていた。

もう一人描きとめて置きたい人。それは神奈川県横浜市金沢区大道二丁目(旧武蔵野国久良岐郡六浦莊寺分村大道)に生まれた政治家・小泉又二郎だ。

江戸(慶応元年五月十七日誕生・明治・大正・昭和昭和二十六年九月十七日死去)と激動の四時代を駆けた。その誕生の地(大道二丁目)に「小泉又二郎誕生地」の大きな石碑が建っている。

「いれずみ大臣」の異名をもつ小泉又次郎は、慶応元年(一八六五)の鳶職の父・小泉由兵衛の次男とした六浦の大道に生まれた。幼児より学業優秀、長じて軍人を志していた又二郎は、小学生になった頃小泉家は急速に発展する横須賀に移住し、間もなくして港灣一の請負業・小泉組になった。しかし、又二郎青年は、海軍士官に憧れ、家業の小泉組を継ぐ意志はなく、だが兄が病死したため家業の小泉組を継ぐことになった。軍人を断念するため、背中に龍の刺青を入れた。その後、家業を弟に譲りと、立憲改進黨に入党、市議、県議を経て、明治四一年衆議院議員に初当選、のち衆議院議員十二回連続当選勤続年数三十八年に及んだ。

この間、憲政会幹事長や衆議院議員副議長、浜口・若槻内閣の第三三代通信大臣を二度歴任し、昭和九年には、横須賀市長に就任した。戦後公職追放となつたが、昭和二十六年解除の三日前に八十六歳で亡くなった。小泉又二郎は六浦の宝樹院(高栄山高照寺)で養嗣(女婿)・小泉純也(元国務大臣)と共に眠っている。合掌「南無阿弥陀仏」

孫には第八七代・八八代・八九代三期に亘る内閣総理大臣・小泉純一郎。祖孫には俳優の小泉孝太郎、衆議院議員の小泉進次郎(元環境大臣)などがいる。

通算三十八年間の代議士生活を過ごした「野人の又さん」のこと「大久保彦左衛門」になつて、この世の政治の悪を怒鳴りつけてほしいものだ。

(※雅号を「半島」と書し、愛知県知多郡阿久比町「卯坂八幡神社」の拝殿には直筆の書が飾られている。)

どこを見ても絵になる風景だ。当時は、金沢八景浮世絵の「内川の暮雪」のような往来(通り)であつたらう。

東は瀬が崎、室の木、西は鷹取山へ連なる天神山系の尾根道に出た。その小径を横切り、峠を越えると「相模の国」に入る。

その小径の傍らに古くから五輪塔・地藏・庚申塔が祀られていた。

相模に入って最初の村が「浦郷村」(現

あんしんを羽ばたく力に 一京急グループ

# 京急メモリアル

もしもの時は、まずご一報を! 24時間受付  
安心と信頼を 自信をもってご提供します

久里浜斎場  
京急久里浜駅徒歩1分

0120-277-299  
フリーダイヤル

(経済産業大臣認可全葬連加盟)

KEIKYU  
京急グループ

在の追浜だ。

「浦賀道ぶらり散歩」拙著に、たびたび「浦賀道」と記述されるが浦賀道※1とは、江戸時代幕府と浦賀奉行所を結ぶ重要な陸の連絡道路であった。その約三分／二がこれからの道程である。鷹取山系（さんけい）から続く天神山脈が和田山・室の木、瀬ヶ崎までに至る。その尾根道が武蔵・相模の国境で、「砦」のような地形も残されているという。

明治に入ってから三度に亘る切通しの工事で切り開かれ、国道十六号線と京急線が通る現在のような切り通しになった。

横浜・横須賀市境のようにポール立ての看板表示ではなく、当時は殿様の領地の地境であったので厳しい監視・立入りの制限があった。

天保年間の記録によると、浦郷村は、傍示堂（ほうじどう※2）に境番小屋を建て、浪人共の狼藉を取り締まったと残っている。

天保時代は、大水災害（台風）や冷害による凶作などで飢饉が発生するなど土地の人が生きていくには過酷な時代の背景もあった。輪を掛けたように幕府は改革（天保改革※3）を実行し、厳しい対応をとったためこの天保年間は日本各地で騒動（百姓一揆等）が起こる原因となった。

国道の拡張工事が始まると、峠の国境の小径の傍にあった鎌倉―室町時代前後から周辺に（傍示堂・お堂が建てられていたかもしれない。）に祀られていた石塔群は、現在の場所に移された。

国境を下ると浦郷村の鎮守の雷神社（※4）、樹齢四百年を越すとされる大銀杏のご神木、「乳頭」が垂れる巨木が境

内にある。

草葺屋根（江戸時代のころ）の社の一の鳥居と二の鳥居の間を抜ける道（浦賀道）を通り石段下りまっすぐ進むと、左側に「石笑」・「現在は西庵」があり、この家は、「西の家」と呼ばれた名主、庄屋を勤めた旧家の跡で、家の前に「西の橋」※5があつて、この橋を渡り、川沿いに進む、辺りは道幅が二間もあつた。川は、元西友のビル建築に伴ないビルを回るように地下に埋設（※6）に設けられていて外から見えない水溝（スイコウ）で暗渠（アンキョ）というされ、鷹取川となり野島の海に注がれている。

更に進み駅前前（交差点を過ぎ、暫く国道沿いに歩くと追浜南町一丁目の信号、そこにある高橋生花店の付近に昔は「大門」と云われた「陣屋」の入口があつた。

三浦半島を支配する朝倉能登守は浦郷に「陣屋」※6を最初に設けた。また、観音寺付近の丘陵地帯には朝倉城跡（砦）があつた。

後北条（小田原城北条氏）の支配から徳川の支配に変わった後は、領主は度々変わったが、幕末に「大津陣屋」ができるまで、三浦半島の「陣屋」としての役目は続いていた。

「大門」があつた生花店の横を曲がり京急線の踏切を渡り、路線沿いの小道がある。この小道が浦賀道で「陣屋」の土塁が連続したものと思われる。南町一丁目の概ねすべては「陣屋」の敷地内となつていたのである。土塁がある道を約一町（約百メートル）で良心寺（※7）に着いた。

良心寺は、朝倉能登守景隆夫人の戒名からとつた浄土宗のお寺であり、当時は、良心寺の前にも川（現在は暗渠）が流れていた。鷹取川の支流の鷲ガ入川沿いに辿ると追浜南町二丁目の町内会館の前の三

又路に出た。現在、川は（暗渠）となつている。左の京急線の踏み切りの道は、浦賀道である。

三叉路を右側へ南町二丁目の谷戸を通つて行く道が池子道である。三叉路の所である。首切り観音があつたと伝えられている。

町内会館から京急線と駐車場沿いの道を進むと小川が現れる。突き当たりの崖下の僅かな平地に建てられたお堂の、中央正面の碑に「首切観音」※8と彫られ、昭和三年七月十一日梅月書※9とある

「左折して崖沿いの道と人家の間を流れる川に沿って進むと行き止まり、左折し踏み切りを渡り、路線沿いに進むと道標付庚申塔があつた。正面に庚申塔が彫られ右に 沼間道、左に 浦賀道 とある。

天保年間の当時、三浦半島を治める松平大和守が浦郷村に「陣屋」を置いたので半島各方面の人達が繁く陣屋に通つたのであろう。そのために造られた道標であつたと思われる。

鷹取山の方面に向かう尾根に出て、後浅間の手前を左折し、山を下ると沼間法勝寺のある谷戸へ出て沼間に至る。鷹取山への尾道は、水道管が敷設、整備されている。

国道十六号線に出て、田浦（船越）方面へ向かうには、山を越えなければならぬ。国道十六号線（下り線）を歩くと横須賀街道は上り線用と下り線用の浦郷隧道（トンネル）がある。下り線の浦郷隧道手前の石段を登り左折する道（道の左下側には数軒の人家を見て、上り進んで行くといキングコースに出る。）を通らず、まっすぐ登っていく。山間の道沿いのこのあたりも、人家が道沿いにあつた。中には廃居になつている家もあつた。

草生す道なき道をどんと登つて行くと思わぬ先が切と通し、目の前にあつた。切り通しは国道浦郷隧道の上の鷹取山ハイキングコースと交差するようになつた。十三峠に次ぐ難路の「がらめきの切り通し」※10という浦賀道の一部の古道である。

（※11）

（※12）

（※13）

（※14）

（※15）

（※16）

（※17）

（※18）

（※19）

（※20）

（※21）

と別れ、急な山道の続く「相模の国」に入る。相模の国に入る最初の村が浦郷村である。浦郷村からは田浦村を経て、急峻で人馬を悩ませた「十三峠」を越え、更に長浦村―逸見村―横須賀村―深田村―中里村―公郷村―大津村を経て浦賀村に至る。

町屋村から浦賀村迄五里(約十九・六km)東海道保土ヶ谷宿からは、九里二町(三十五・六km)で、江戸時代の東海道を歩く速度(男性約四〇km/日)を見ると一日で十分な距離である。しかし、トンネルがなかった当時は、それとは比較にならない三十五km難路であったに違いない。

※2 傍示堂の掲示板には、天神山脈の尾根道を貫く峠の小径があった。その路傍には、五輪塔、地藏・庚申塔が古くから祀られていた。特にこの峠は、浦郷村と六浦庄村の村境であり、また、相模と武蔵の国境でもあったため、隣村からの悪人や病気が入ってこないよう。そして自身の長寿を祈ったのが、この石塔群なので。

六体揃った舟型の石の中にお地藏様がほられた地藏と首の落ちた痛々しい六地藏もあります。「六地藏信仰」は人間の死後六道(天上・人間・修羅・畜生・餓鬼・地獄)を輪廻転生すると言われ、自身、亡者の死後の世界の幸せを願ったものでありまし、よう。

また、「庚申塔」は、人間が穀物を食べるようになり、人間の体の中に「三尸(し)の虫」が入り、その行動を監視しています。そして十干十二支でいう「庚申」の日は、その人間が眠りに入った時に体内を飛び去り、「天亭」にその人間の悪事を報告します。そのため、「庚申」の日は、「三尸の虫」体内から飛び去らないよう講を造つたりして夜を徹し、講を続けること十三座として、その折りの節に庚申塔を建てたと云われています。庚申様は延命長寿に五利益があるとされています。昔、村人は身を慎み、長寿や健康のみならず、家内安全、五穀豊穡をお祈りし供養したのであろう。

「五輪塔」は故人を成仏に導き、故人の魂を救う、供養するもので、鎌倉・室町時代に建てられたものが多く、宇宙あらゆる世界(の五大要素(空・風・火・水・地)を表現しています。この「傍示堂」に祭られている「五輪塔」は約六百年前のもので四面に「梵字(古いインド文字)で彫られている大変貴重なものです。このように説明されていた。

※3 江戸時代の天保年間(一八四一年～一八四三年)に、財政の引き締めと物価制御、農村復興(人と返し法)などを二年間行われた改革です。時代背景には、十一代将軍徳川家斉が実権を握り、「大御所時代」と呼ばれていました。この時期は凶作による飢饉が発生し、凶作による物資不足による物価の高騰で飢饉による惨状は江戸の町でも死者が多く出ました。一八三七年の大坂奉行所の元与力大塩平八郎が反乱を起し

た。ロシアを始めとする列国が日本に接近し通商を求め来航するも幕府は否定した。蝦夷地を幕府直轄として経営するが財政は逼迫した。また、老中水野忠邦が発した改革で上知令(あげちれい)・じようちれいとも呼ばれている。)、大名、旗本や領民の反対で中止を余儀なくされた。

※4 雷神社 祭神・火雷神(ホノイカツチノミコト)・神体・東帯騎馬の像  
創建は、承平元年(九三二年)勧請(御霊が入った年)。

推定されることであるが、古くは大化の改新頃に雷祭が行われ、天神古墳から出土した「直刀」類や、「牛頭骨」の出土した鋳切遺跡などから考えると古墳時代に遡るかもしれない。  
本浦村(追浜駅前周辺)は、本の位置は「天神」と言われ、室の木に祀られていた「天神宮」から築島(元みずほ銀行の裏側駐車場)に分祀したと考えられる。  
この時代は、この当時の習慣として、女性は生理を迎えると不浄を祓うため雷神社の境内の近くにあった共同の建物で過ごしたと思われる。ある日突然に物凄いい稲妻と雷鳴が起り、神社の御神木「柏壇の木」に落雷木は黒焦げになったが、女性達はカスリ傷も負わなかった。

このことを知った浦郷村の領主「朝倉能登守」は、その奇跡に驚き、「火雷命」を祭神として、雷神社を再興した。昭和二十三年草葺の社殿が焼け、昭和三十五年に竣工(新しい社殿)しました。

※5 鷹取川の支流の関ノ入川に架かる橋で、西の橋(前の橋ともいって)国道十六号線拡張工事で橋の欄干(ランカ)の一部が残っている。

※6 陣屋は、戦国時代から江戸時代にかけて、支配する領地の年貢の取立てや、法の取締り治安の維持等に用いられた。前記の通り、朝倉能登守が陣屋をもつけたが、御北条が滅亡し、朝倉氏も倒れたあとも、徳川時代は長谷川長綱が三浦半島支配の総代官として、陣屋に入った。後に三浦半島の海防等に備え、酒井(前橋藩)、松平(川越藩)などの有力大名が入り、すべてここを陣屋、または支陣屋として使用していた。

※7 良心寺(浄土宗・知恩寺末・本尊 阿弥陀仏)寺の山号の院名及び寺名は、朝倉能登守夫人の戒名からとったものがある。(開基・大悲院殿法善良心大師)朝倉氏が浦郷(追浜)を支配したのは後北条が三浦半島を制した永正十三年(一五一六年)、後北条の滅亡までの天正十八年(一五九〇年)の七十四年間である。朝倉氏は越前一乗谷朝倉氏の血統を引く名門で、後北条玉繩城十八人衆の三位に入り、合戦において家老職を勤めた。浦郷住民のため道路、橋の整備や氏神様の雷神社の復興や良心寺の基礎を造るなど立派な仕事を残された人物である。寺の御朱印は十五石という大変

なものであったとされる。夫人の墓は一段登った山の上であり、市の重要文化財となつている。戦国武将の哀れさどて亡くなったか未だに分らない。

### ※八 首切観音

崖のわずかな平地の面に建てられたお堂の中央正面の碑に「首切観音」と彫られている。昭和三年七月十二日梅月書とある。梅月は横須賀の船越六丁目に住んでいた俳人である。(罪人を処刑した場所なのかどうかは定かではない。

### ※九 松竹庵梅月

梅月は、明治七年(一八七四年)神奈川県中郡(大磯・二ノ宮)に生まれ俳人の母の指導で句才を伸ばした。

日清戦争直後、横須賀に来た。海軍工廠(務める傍ら、門下の指導に専念する。大正の中ごろ船越に住み、門下の指導や全国的な仲間づくりを励み一方、隣近所野子ども達の育成に尽くした。船越神社を詠んだ二句木の美落ちて 石段 ころり ころり 同様に関東大震災船越神社「草に臥(ね)て 虫の声 聞く 露宮哉」

梅月の辞世の句「すり鉢になめつくされし 露の露」昭和十七年逝去(六十九歳)

### ※十 がらめきの切り通し

がらめきの切り通し(切り通し)には六部ヶ入坂と呼ばれる急坂があつて、東回りと西回りの二つの経路があつた。浦賀道は、東回りの比較的険しい道のものであつた。十三峠(田浦村から按針塚山・逸見村を経て浦賀道の峠※保土ヶ谷宿から十三番目の峠ともいわれている)に次ぐ難所の一つと数えられていた。六部ヶ入坂は国道十六号線浦郷隧道(トンネル)の開通により消失した。現在、がらめきの切通しは、南側の浦賀道の尾根道が二百メートルほど残るが北側は前記と通りである。また、鷹取山方面へと抜ける尾根道と北側は浜見台へと抜ける道があるなど、がらめきの切通しは、三浦半島の重要な中継道であつたと思われる。

## 追悼 吉沢威氏(支部元顧問)

### 産経新聞、神奈川新聞

八月一六日朝刊記事(以下そのまま)

奈良・和歌山両県にまたがる修験者の参詣道「大峯奥駈道(おくがけみち)」を一人と和歌山側に向かっていたが、七月七日の下山予定を過ぎても連絡が取れなかつたため、家族が届け出ていた。奈良県警は同月三十日に遺体を発見、崖から転落したとみられている。

奈良県警吉野署は八月十六日、同県上

北山村の山中で発見された男性の遺体が見つかった事件で、身元は神奈川県横須賀市の無職吉沢威さん(七十九歳)と確認されたと発表した。(記事以上)

この記事の痛ましさに暫くは何も考えられず、涙がこぼれるような、記憶となつて私の傍にある。

故吉沢さんは、著者の「支部だより」編集や投稿記事において、ご愛顧とたびたびのうれしい評価をいただくなど、よき先輩でありました。また、南極O.B「しらせ会」、機関会(機関幹部会)、隊友会等で長年に亘り、一緒に「奉公させていただきました。生前の吉沢さんは我々後輩に優しく、何事にも真剣にご指導いただきました。心からの感謝の念を彼岸へ、「合掌」

謹んでご冥福お祈り申し上げます。

奉公と 在りし語りし 彼岸花(竹舟)

広報委員長 五十畑 竹夫

NOMURA

# 野村證券

横須賀支店

〒238-0008 横須賀市大滝町1-9  
TEL 046-823-2550

◆◆ 野村證券を身近なアドバイザーとしてご利用下さい ◆◆

## ウクライナ軍事侵攻について

八月九日(火)、「長崎原爆の日」七七回目を迎えた。

今年二月(二〇二二年二月二十四日)にロシアによるウクライナへの軍事侵攻が開始された。

ウクライナのウオロディミール・ゼレンスキー大統領は、四月五日のビデオ演説で、民間人の被害判明は拡大していくとの認識を示した。キーウ(キエフ)周辺や東部スミイ州など他の地域で民間人の被害が次々と明らかになってきた。殺害や拷問は露軍が占拠していた広い範囲で行われていた可能性がある。キーウの北西部の都市ブチヤで露軍に殺害・拷問された市民が三〇〇人超となり、ボロディヤンカ(人口二万二千人)の方が多い可能性がある」と語った。

読売新聞の「編集手帳」(二〇二二、四、六)に「悪魔の証明」※とは新約聖書の一節、サタンがイエスを試した挿話(そうわ)から来ている。どんなやり取りかは省くが、事実や現象が起きてないことを証明するのは不可能に等しい、という意味に用いられる。

例えば「地球上に恐竜の生き残りはいない」と証明するには、世界を隅々まで探索せねばならない。西欧で長く語り継がれてきた真理のようなものに、ロシア政府はあらがう方針らしい。

ネベジヤ国連大使はウクライナ国民の虐殺をフェイクニュースだと断じ、「民間人を殺害していない証拠を安保理に提出する。」述べた。

路上に散乱する遺体や土を掘っただけの集団墓地の映像が報じられた。後ろ手に縛られ後頭部を撃たれた遺体も見つか

つたという。国際刑事裁判所が動けば、残忍な戦争犯罪の証拠はもつと確かなものになるだろう。

以前、法曹関係者から教わった警句を思い出す。へ事実は一つだが真実は人の数ほどある。〜

この場合の真実はロシアが訴えるような、聞くに堪えない主張も含む。また、「ナチの虐殺を止める」プーチン大統領の発言(このことを口実にしたり、ありもしない真実が幅をきかず戦争である。』と述べていた。

戦後七七年の振り返ると、ロシアのウクライナへの進攻は、力で国際秩序に挑戦する国(ロシア)が現れ、戦闘は長期化し、向日葵の花が咲く真夏のウクライナの街と暮らしが破壊されていく、惨禍が繰り返えされている現状をみて、日本の戦前の歴史を見つめ直すことも必要である。

なぜ日本は、米(連合国)に戦争を仕掛けたのか。最も重要なのは、日本が世界から孤立していたということだ。

読売新聞の報道記事によると、冷戦を最終に導いたミハイル・ゴルバチョフ旧ソ連大統領が死去した。ロシアのウクライナ侵略を巡って米欧とロシアが対立する中、冷戦後国際秩序の挫折を象徴する訃報となった。

一九八九年の「ベルリンの壁」が崩壊から冷戦終結、ソ連崩壊の激動を経て、欧米では九〇年半ばまでロシアと西側の関係については楽観的な見方が支配的だった。二〇〇〇年ロシア大統領に就任したプーチン氏の下で、ロシアは欧米との対立路線に逆戻りした。一九九一年解散した旧ソ連時代の軍事同盟「ワルシャワ条約機構」の旧加盟国は、次々と「北大西洋条約機

構(NATO)」に加盟し、プーチンはNATOを敵視した。今年の二月のウクライナ侵略によって敵対構図は決定的になった。

欧米諸国が全面的な経済制裁でプーチン政権に圧力を掛ける中、大規模侵攻から六ヶ月が経過した。今月初旬以降、東・南部で反転攻勢に出たウクライナ軍は、州都ハルキウ市を掌握するなど要衝のイジューム市の奪還を宣言した。米政策研究機関の「戦争研究所」も、ウクライナ軍の反攻が露軍の士気や軍事的に重大な影響を与え続けているとの認識を示している。

しかし、奪還した地区においての戦争犯罪の追及がウクライナ検察などの手で進んでいる。その悲惨な状況、その背景を一つに露南部のチェチン系やモンゴル民族に近いブリヤード系など貧しい若者たちである。南部クリミア出身者、ベラルーシ国旗を腕章につけた兵士も目撃されていた。証言をまとめるとキーウ近郊に派遣されていたのは、十歳代後半から二十歳代前半の地方出身者が多かったとみられている。兵士らは、住民の家の台所やスパーにあつたジャムや野菜の缶詰などを「うまい」と言つて食べていた。部隊に配給された軍用食は、監視下に置かれた住民が約二週間、代わりに毎日食べたという。また、住民から盗んだ品の分け前を巡る喧嘩、ロシア系を「プーチンの犬」と馬鹿にしていた。部隊は何度か交代し、三ヶ月前半に派遣された部隊は規律を守ることが多かった。時折会話も交したが、食料が不足した三ヶ月後半の部隊は凶暴化し、学校や幼稚園に無意味に発砲するようになった。後半の兵士とは一切口もきかず、目も合わせないようにした。と住人が当時を振り返っていた。

## 豊かな暮らしのお手伝い



スーパーマーケット エイビー  
**ave**  
株式会社 エイヴィ

## 特別優待割引の店 (三親等まで利用可)

株式会社 にしづか・函館グループ  
SAIAN

- 函館野比店 TEL046-847-2424 野比1-13-6
- 函館三浦海岸店 TEL046-888-9001 上宮田3371
- 函館久里浜店 TEL046-833-0124 久里浜5-10-11
- 函館北久里浜店 TEL046-838-1324 根岸町2-33-3
- 函館堀ノ内店 TEL046-824-1524 三春町2-2
- 函館追浜店 TEL046-869-0024 追浜本町1-14-2
- 法要会館 絆会館 TEL046-847-2424 野比2-1-7

兵士が大量に酒を飲み、酔って喧嘩するようになったのも三ヶ月後半だという。住民への暴行や無差別殺害が増えたのも三ヶ月後半である。

ウクライナ軍参謀本部は、奪還した地域ハルキウ州のイジウームなどでは、露軍による戦争犯罪が毎日、最大で二百件確認されている」と述べた。

読売新聞(九月十四日)掲載された記事を読み、ソ連が日ソ中立条約を破り、北方領土を違法に占拠し続けている。未だに日本との平和条約は結ばれず、平和条約に代えて、戦争状態の終了、外交関係の回復等を定めた日ソ協同宣言に署名した。我々はロシアのウクライナ侵攻をみて、史実の再確認をすべきである。

掲載記事では、ポーランドは一九三九年九月にナチスドイツとソ連に相次いで侵略された。ミレフスキ・駐日ポーランド大使は、読売新聞に寄稿し、ウクライナ情勢を理解するための視点を論じた。

一九三九年九月一日は、ドイツによるポーランド侵攻の開始日や第二次大戦の開戦日として全世界で記憶されている。だが、ポーランドはもう一つの全体主義国家に侵略された。ソ連はスターリンとヒトラーによる同年八月の秘密協定に沿って、九月一七日にポーランド東側から攻撃した。秘密協定はポーランドだけでなく中東欧州全体をソ連とドイツ両国の勢力圏に分割させる内容だった。ソ連は協定の条項に基づき、バルト諸国を占領し、ルーマニアの一部を併合し、フィンランドの征服を試みた。

この侵略でソ連が行ったことはいずれも、妙に聞き覚えがあるものだ。ロシアが今、ウクライナの占領地で行っていることと同

じだからだ。ソ連も当時、恐怖によって民衆を支配し、民間人や戦争捕虜を処刑し、土地の違法な強奪を正当化する目的で偽りの国民投票を演出した。「カチンの森」(※2)では一九四〇年、ポーランド人将校や戦争捕虜を大量殺害した。

ドイツは最終的に敗戦国となったが、過去と決別し自らを平和で民主的な国家として再定義した。これに対しソ連とロシアは、魂の探求や過去の直視をほぼ避けた。実際、今日のロシアでは、ソ連時代を称賛し粉飾する官製の歴史を疑えば犯罪となる。

残念ながら、歴史に学ぶことができない者は同じことを繰り返す運命にある。

私たちは「九月一七日」という日付の重要性を記憶し、欧州史上最悪だった暗黒時代に繰り返されたくないようにしなければならぬ。とポーランド駐日大使は寄稿記事で述べていました。

最後は、ウクライナ前大統領のペトロ・ポロシエンコ氏のインタビュー記事(読売新聞)で終わりたい。

ウクライナのウオロディミル・ゼレンスキー大統領に敗れた前大統領のペトロ・ポロシエンコ氏は、「ロシアが占領している領土がすべて解放されて始めて戦争は終わる」と述べて、二〇一四年に併合された南部クリミアを奪還するまでウクライナの抵抗は続くとの認識を示した。野党「欧州連帯」を率いながらウクライナ軍の支援にあたりついているポロシエンコ氏は、ウクライナではクリミア奪還を目指す共通認識が党派を超えて存在していると述べている。ポロシエンコ氏は、侵略が始まった二月二十四日、ゼレンスキー大統領と会談し、「我々はみな兵士だ」と政治的な目標を棚上げ

にしている」

ゼレンスキー大統領は、合意にはウクライナ、ロシア双方で認識に隔たりがあり、「ミンスク合意」(※3)は「負の経験」との表現で厳しく批判してきた。

※1 悪魔の証明とは、証明することが不可能か非常に困難な事象を悪魔に例えたものをいう。「この世に悪魔など存在しない。」と主張するならば、それを証明してみろと迫ることである。要するに、「証明が到底不可能な事柄」のこと、及び、そのような証明不可能な事柄について「証明しろ」と迫る態度や言動のことである。

※2 「カチンの森」

ソ連は第二次世界大戦中の一九三九年にポーランドに侵攻し、旧ポーランド東部地域を侵略・併合。ソビエト連邦のモレンス近郊に位置するカチンの森(ロシア語)で約二万人のポーランド軍将校、国境警備隊員、警察、一般官吏、聖職者がソビエト内務人民委員部(NKVD)によって虐殺された事件、ドイツ国防軍がソ連に侵攻した際発見された。しかし、ミハイル・ゴルバチョフがソ連共産党書記長に就任すると、ポーランドとの合同調査後、ソ連は事件の非を認め、正式にポーランドに謝罪した。また、虐殺をスターリンが署名した文書を公表した。

※3 二〇一四年に始まったウクライナ東部紛争を巡る和平合意。

横須賀支部会員 竹舟

### 事務局だより

(各項目のお名前については順不同、敬称略、また各イベントにつきましては新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止、実施要領の大幅変更があり得ます)

☆ 新入会員紹介

次の方が新たに入会されました  
(令和四年五月〜令和四年八月)

○ 正会員

天沼 秀俊(海)、濱野 裕史(陸)、  
山本 哲史(海)

○ 特別会員

浅尾 慶一郎(個)、尾瀨 広明(個)  
☆ 物故者(令和四年七月以降判明分)

次の方々がご逝去されたとの報を得ました。心から冥福をお祈りいたします。

○ 正会員

山田 照貴(海)、平 整海、  
岡田 秀樹(海)、西影 信一(海)、  
吉沢 威(海)

☆ 令和四年度第二回理事役会

(理事役等役員対象)

十一月二十六(土)二二三〇〜一四一五の間、ヴェルクよこすかにて開催予定です。当該理事役会については、十月に関係役員の皆様に案内状を送付済みです。

☆ 令和四年度人生セミナー・食事会(会員全員対象)

前項の第二回理事役会終了直後、同じ場所で一四三〇〜一六四五の間、開催予定です。コロナ禍前のこの時期は例年、理事役会と懇親会忘年会を実施していました。しかし、コロナ禍は未だ完全収息に程遠いこともあり、懇親会を取り止め、特別会員等からの協力を得て、人生セミナーとして、会員の多くの皆様が必要となる相続に関する話を伺います。セミナーの後には引き続き同じ場所で食事会を開催予定です。この人生セミナー・食事会のご案内は、会員全員に對しまして九月に隊友紙に同封して送付済みです。

☆ 令和五年横須賀防衛団体合同賀詞

交歓会

令和五年一月一四(土)一三三〇〜一五三〇の間、横須賀商工会議所にて実施予定です。なお、既報ですが、隊友会横須賀支部は、以後毎年この賀詞交歓会の主幹事を担当することとなりました。会員の皆様のご理解ご協力を切にお願いいたします。

当該賀詞交歓会の案内状は十一月の

隊友紙に同封いたします。(確認の上、奮つて応募ください。)

☆ メールアドレスの登録依頼

既に何度も掲載済みですが、当支部では会員の方々のメールアドレス登録を推進中です。当支部からの各種連絡はメールを使えば迅速かつ安価に実施できますし、受信者としても情報を迅速に受け取り、かつ紙のように紛失することはありません。しかしながら、メールアドレスの登録者数はまだ二百数十名程度に留まっております。また、事務局からメールを送りしてもエラーとなる方も少なくありません。

☆ 次の会員の方々の連絡先をご存じの方は事務局まで一報ください

(太字新規)

齊藤 定司(海)、神田 晃(陸)、森谷 知次(海)、渡辺 修(海)、萩原 浩(陸)、守田 英基(海)、牧 秀一(海)、

河野賀津寿(海)、丸山 一夫(海)、小山 友幸(海)、永井 利衛(海)、村上 進海、村越 武夫(海)、佐久間幸雄海、加賀谷 徹(海)

前述のとおり、最近また住所不明の会員が増加しております。もし、住居を転居される場合、ご本人又はご家族の方でも結構ですので、支部事務局にも一報をお願いいたします。規則には、一定の間、連絡先が不明の場合は退会となる規定もございます。宜しく願っています。

☆ 横須賀支部事務局連絡先

電話及びファックス

○四六〇八二七〇二五五九

メールアドレスは次のとおりです。

[tys-05@nifty.com](mailto:tys-05@nifty.com)



「しらせ」令和4年度総合訓練に出港



シンガポール艦 RSS F69「INTREPID」

## 編集後記

ロシアのウクライナ侵攻から早や七か月が過ぎました。このところウクライナ危機の報道はウクライナ軍が東部のヘルキウ州や南部のヘルソン州等でロシア軍から領土を奪還したというものが目立ちます。

二月の開戦当初はロシア軍がウクライナ軍に対して圧倒的な戦力があつたのに、ここに至ってウクライナ軍がこのような攻勢を実現できているのは、欧米を中心とした西側からの武器等の支援、ロシアに対する西側からの経済制裁の効果がボディブローのように徐々に効いているからであり、先の上海協力機構首脳会議における中国等からの支援表明が必ずしも予想どおりでなかったことから、ロシアが国際社会から孤立しつつあるのは明白と言えます。

今回の支部だよりの中で竹舟会員がウクライナ侵攻の戦況とロシアの軍紀について詳しく記述されております。

また、今年から始まった竹舟会員の「浦賀道ぶらり散歩」もやつと田浦にたどり着いたところで一旦足を休め、次回は横須賀の軍事遺構等について触れられるようです。楽しみにしたいと思います。



## 《かなしん よろず相談承り処》にご相談ください。

かなしん よろず相談承り処は、かながわ信用金庫が運営する「なんでもご相談窓口」です。金融商品以外のご相談もちろんOK!! ぜひお気軽にご利用ください。

### かなしん よろず相談承り処

場所：横須賀市大岡町2丁目21番地 (三笠ビル高2階内)

営業時間：10:00~19:00 (12月31日、1月1、2、3日を除く)

フリーダイヤル：0120-0468-01 神奈川県内よりご利用いただけます。(受付時間 10:00~19:00)



かながわ信用金庫  
かなしん

医療法人 社団 祥豊会

## 杉山歯科医院

- ・義歯でお困りの方
- ・歯周病でお困りの方
- ・いびきでお困りの方

院長 杉山 義 祥 (防大12期 幹校43期)

〒239-0802 神奈川県横須賀市馬場町2-2-31

TEL 046-844-3223

FAX 046-844-3225

<http://www.sugiyamashika.jp>